

令和 7年 7月 17 日 15:00 ~ 16:30高齢者交流プラザ ひまわり2F大集会室

【事例提供者】刈谷居宅介護支援事業所 岡田清美

◎なぜこの事例を選んだのか

脳梗塞で右半身まひがある。リハビリして回復した身体機能が、てんかん発作の度に毎回後退してしまう。また、言語障害によるコミュニケーションのもどかしさが本人の意欲減退やネガティブ思考につながっている。食事、利き手の右麻痺がある為、食べる動作や咀嚼も時間がかかる。またこれまで仕事で会食が多く、夕食はビールとつまみで済ませていた為、偏食もある。体重を増やし、筋力や体力を付けるためにはどうしたらよいか。61歳とまだ若いので今後、本人・家族へどのようなアプローチを行っていけば、本人らしい在宅生活を送ることが出来るかを考えたかった。

◎意識して取り組んでいる事(ケアマネの思い)

- ・利用当初は「デイサービスは年寄りの行くところ、自分の行く場所ではない」と、リハビリやデイサービス等へ通うことも否定的であったが、事業所職員の励ましや声掛けによって通所できるようになった。声掛けによってモチベーションが向上する事例が多く、心がけている。
- ・新たな取り組みには否定的であるが、じっくり時間をかけ説明を重ねると納得されるため、本人の気持ちを何度も確認しながら話し合う機会を持つようにしている。
- ・妻は体調不良(メニエール病・更年期障害など)や夫に対する不信感(過去に不倫されていた)がある。妻に対する配慮も必要。

◎振り返り考える事

- ・はじめはデイサービスへ行くのも「俺は老人じゃない」となかなかリハビリも進まなかったが、現在は通所介護(一日)へ週4日、短時間通所リハビリへ週1回通えるようになった。本人の意欲を今後も見守りたい。
- ・妻が夫の介護に疲弊していたころ、ようやく本人の意欲も出、デイサービスに行くことで妻の自由な時間が増えた。妻の体調や思いを受け止めながら、今後も無理なく介護が続けられるよう見守りたい。

◎研修後の自己評価